

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
研究支援人材育成プログラム
 (実施期間：平成 26～33 年度)

コンソーシアム名：水産海洋イノベーションコンソーシアム

代表機関：東京海洋大学（総括責任者：和泉 充）

共同実施機関：岩手大学、北里大学

取組の概要

東京海洋大学、岩手大学及び北里大学は、三陸沿岸地域を水産海洋産業の復興とイノベーションの場と捉え、現地での研究・教育活動を行っている。

今後は、地域への研究成果の普及と検証、更なる課題に対する研究プロジェクトに係る研究支援人材（URA）の育成が最重要と考え、運営協議会が選考する研究支援人材をURAと位置付け、三陸沿岸地域に研究施設を持つ大学と首都圏に位置する大学、さらには、公設試験研究機関等が連携し、URAをコンソーシアム内の研究機関に配置して、人材の循環を行う取組を強力に推進する。

また、当該人材を適切かつ安定的に雇用するとともに、6次産業化を踏まえて、水産業にかかわる多様な知識・情報・社会情勢を礎とし、他の研究機関、地域の企業団体等と密接に連携しながら、複数の研究機関における研修等に参加させ、三陸水産海洋業のイノベーションと持続的発展を先導する専門性の高いURAとして育成する。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

水産海洋に特化したイノベーションコンソーシアムとして、3大学のこれまでの研究教育連携を活用して地域産業とアカデミアの連携・橋渡しを行うURAを育成する取組であり、順調な進捗が認められる。特に、グローバルネットワークの構築、産地と消費地を結ぶ新たな事業展開は大きな進展として評価できる。また、教育プログラムは、知識の集積だけではなく、スキル標準を策定し、産学官の連携による実地研修を踏まえた内容を目指しており、評価できる。一方、URAが業績について適切に評価を受けるシステムの構築が行われているが、評価結果の処遇等への反映が適切に行われることを期待する。

・**進捗状況（全般）**：URAの採用、養成が計画どおり進められており、実践的な教育プログラムが国内の自治体や海外機関との連携により実施されていることは、評価できる。また、選定時のコメント等に適切に対応しており、事業の推進室を気仙沼市に加え、東京都墨田区にも設置し、産地と消費地を結ぶ事業展開を行っている点も評価できる。今後、本事業を通じて育成されたURAが、コンソーシアム内外の機関において、安定性のある職に就くことを期待する。

・**進捗状況（システム構築）**：水産海洋分野に特化したURAに必要な22項目のスキル標準を

設定し、URA 自身による自己評価を実施していることは、評価できる。また、多数の研究機関、企業等と連携して URA のキャリアアップを図る仕組みの構築が進んでおり、フランスの研究機関との間で共同研究に発展した実績は、評価できる。今後、URA に対する業績評価の結果を踏まえ、URA の処遇等への反映が行われることを期待する。

- ・**進捗状況（取組の内容）**：公正な審査を経て、コンソーシアムの目的に沿った URA を選考しているものと認められる。また、多様性のある URA を採用していること、採用者は様々な研修プログラムを受けられる環境になっていることは、評価できる。今後は、URA がキャリアアップできる仕組み作りに取り組むことを期待する。

- ・**体制構築**：運営協議会は実施主体として適切に機能しており、企業や海外からの委員を含めた有識者からなる水産海洋イノベーションコンソーシアム委員会が設置され、事業は適切に運営されているものと評価できる。また、代表機関、共同実施機関、それぞれにおいて総括責任者あるいは実施責任者のリーダーシップは、十分に発揮されており評価できる。

- ・**今後の進め方**：今後の継続的な取組について、資金計画が具体的であり、6年度目を目処に運営協議会を拡大運営協議会に改組するとともに、全国共通化したプラットフォームを展開させる計画となっている点は評価でき、連携機関も参画した拡大運営協議会の遅滞ないスタートを期待する。